

教諭班グループ別研修

研究テーマ『「幼児期に育てたい力」を育む環境や援助の工夫

～遊びの中にある資質・能力を読みとって～』

学年別グループ協議では、子供が遊ぶ様子の一場面の写真から、子供の育ちや教師の環境・援助を読み取り、「幼児期の終わりまでに育てたい力(10の姿)」に照らし合わせ協議した。また助言者には、グループ協議で直接助言をいただいた。学年別全体会でも具体的な事例を用いて、直ぐに実践につながるような御指導をいただき、研修を深めることができた。

<3歳児>

- ・「幼児期の終わりまでに育てたい力(10の姿)」が相互に関連しつつも、「自立心」や「健康な心と体」が基盤となり、そこから協同性や豊かな感性と表現の育ちへつながっていくことを確認した。
- ・子供の姿を読み取る中で、年少児は遊びが行ったり来たりするために、教師は子供の興味を丁寧に探りながら、一人一人が好きな遊びを見つけ安心して遊べる環境を再構成していくことが大切であると学んだ。



～助言者御指導（抜粋）～

- ・グループ協議で、教師の環境や援助が「幼児期の終わりまでに育てたい力(10の姿)」のどこに当てはまるのかグルーピングしていく難しさがあるように感じた。目の前の子供たち、教師の考えや意図、その時々遊びによって項目の捉え方は様々であるため、どのような捉え方も間違いはなく正解であると思う。
- ・研修を通して、他の教諭たちと悩みを共有したり、発言からヒントを得たりできたのではないかな。今日得たものを今後活かしてほしい。
- ・ポジティブシンキングが大切である。否定の言葉ではなく、具体的にどうしたらよいかを端的かつ肯定的に伝えるような声掛けの工夫をしてほしい。「声かけ変換表」を参考にするとよい。

<4歳児>

- ・「幼児期の終わりまでに育てたい力(10の姿)」に分類したり、つながりを可視化したりしたことで、1つの遊びの中に10の姿が複数あり、相互に作用して育ちにつながっていることを確認した。
- ・年中の今の時期はやりたい遊びを十分に楽しむ段階であり、それを経て周りの友達に目が向くようになる。そのために教師は、やりたい遊びを十分に楽しむことができる環境を用意することが大切であるということ学んだ。
- ・年中児にとって、扱いやすい素材や子供に響く声掛けについて学び合うことができた。

～助言者御指導（抜粋）～

- ・子供のやりたいという気持ちと、教師の意図とのバランスが大事である。幼児が活動の主体であるが、用具や素材だけを用意して子供の思うままにやらせるということではない。教師による教育的価値のある意図的な環境に、子供が自ら興味や関心を持ち、試行錯誤を経て環境への相応しい関わりを身に付けていくことが、環境を通して行う教育である。
- ・教師が自身の在り方や関わり方を反省し、改善していく必要がある。反省や改善に繰り返し努めることで、幼児一人一人に合った適切な関わりができるようになる。自分の関わり方や環境設定をいつも思い返し、周りの教師に助けをもらったり、共有したりしながら子供一人一人を見つめていくことが大切であり、そういった教師の人的環境が子供の育ちにもつながっていく。

<5歳児>

- ・「幼児期の終わりまでに育てたい力(10の姿)」に当てはめる中で、提案者の読み取りとは異なる視点で育ちを捉えた意見が多く見られ、子供の姿を多面的に読み取る大切さに気付くことができた。
- ・1学期に、教師が個の思いを受け止めたり、思いを実現できるようにしたりして、遊びを十分に楽しむ経験を積み重ねたことが、2学期の協同的な遊びの育ちへつながることを確認した。
- ・発達段階に適した素材や用具を準備する大切さを確認したり、各園の実践や援助の工夫を情報交換したりすることができた。

<複式学級>

- ・複式学級は、同じ遊びでも遊び方に学年差があったり、ねらいが異なったりする。環境設定や援助の難しさなど、担任の悩みを共有することができた。
- ・複式学級では、教師が異年齢の友達との関わりがもてるよう仲立ちをしたり、時には率先して遊びをつくったりするなど、教師の手立てが大切である。

～助言者御指導（抜粋）～

- ・研修を通して、教師同士で共感し合い、「やってみてよかった」と思ったり、無意識にしていた援助に気付くことができたことにも成果の一つである。保育の質が向上すると、前向きな気持ちになったり、チームワークが生まれやすくなる。様々な意見から自分なりに選択して取り入れ、実践して欲しい。
- ・教育要領解説には、「5歳児の後半には…」の書き出しと共に、具体的な子供の姿や小学校での学びの姿が分かりやすく記載されている。2学期の方向性の目安にしていくとよい。また、「自立心」の項目では、“友達から認められる”がキーワードになってくる。友達同士や学級全体で認め合える場を工夫していくとよい。
- ・令和6年度の『幼児教育じほう』では、年間テーマを“全ての子供のウェルビーイングを目指して”とし、身体的・精神的・社会的によい状態であると捉え、子供一人一人の持続的な幸せを目指した保育について書かれているので参考にしたい。遊びを通して子供が「今」を十分に楽しみ、自分の思いを発揮し、人生を幸せに生きる力を育てるようにしていきたい。

<預かり保育グループ>

- ・週日案を基にした話し合いでは、預かり保育のねらいの定め方の難しさが挙がった。どの園も、3学年全体に対するねらいを立て保育をしているため、年少児から年長児、外国にルーツをもつ子、支援を要する子などの実態を捉える必要性を改めて感じた。
- ・暑さにより室内で過ごす時間が多いため、体感的に涼しさや気持ちよさを感じる製作遊びや教材についての情報交換ができ、参考になった。



～助言者御指導（抜粋）～

- ・夏休み中の預かり保育は、「一人一人が安全に安心して一日を過ごせること」が大切である。安全管理については、一日の日課の中で動と静の動きに配慮しながら、熱中症に伴う脱水症状、午睡の際の呼吸などを丁寧に見ていくとよい。
- ・プール遊びや水遊びは、準備・監視・着替え・片付けなど人手が必要なため、事前に園内で生活の流れを共有し、園全体で無理のない計画となるよう配慮していく。
- ・異年齢の生活では、友達に教えてあげたり教えてもらったりする経験を大切にしたり、刺激を受けてやってみようとする気持ちや、思いを出し一緒に遊ぶ楽しさを感じたりできるよう援助していく。その様子を、通常保育の担任や保護者にも伝えていくとよい。